

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172500029		
法人名	合資会社 オープンハート		
事業所名	グループホーム 美優さくらんぼ ユニット海		
所在地	余市郡余市町黒川町13丁目36番14		
自己評価作成日	平成23年9月1日	評価結果市町村受理日	平成23年10月26日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成23年10月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

美優さくらんぼの運営理念「日々の暮らしの中でその人らしくいつまでも尊厳のある心豊かで安らかな生活を送れるよう目指します」を目標に、利用者様の望む「その人らしい生活」が送れるように、職員全員が一丸となって取り組んでおります。長年続けられてきた習慣(入浴や趣味など)の継続や、日々の生活の中でのレクリエーションや、リハビリ・散歩での体力作り、季節の行事や誕生会など、楽しみを持って生活して頂けるよう支援しております。誕生会にはご本人の好きな食べ物をお聞きし、職員と他入居者様が協力してお祝いの食事を作り誕生日をお祝いしております。又、年に数回は近隣への外出や温泉一泊旅行など、地域以外の方々とも触れ合う機会を設け、利用者様も楽しみにされております。近所の踊りの会の方々によるボランティアなど、ご近所との交流も増えております。2ヶ月に1回行なっている運営推進会議では、職員や看護師による認知症や感染症に関する勉強会なども行なっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かで閑静な住宅街に建ち、JR駅・スーパー・商店街に近く、利便性が良い。事業所内部はトイレや洗面所を囲むように各居室が配置されており、利用者や介護者の動線を考慮した造りになっている。前庭では、歩行運動・ラジオ体操・外気浴を日課とし、健康増進に効果을上げており、椅子やテーブルも置かれ、暖かい日のお茶や近隣住民との交流の場になっている。管理者及び職員は、個々の利用者別に、昔からの生活習慣を大切にしたいきめ細かな介護をし、信頼関係と馴染みの関係の中で、共に過ごす日々を大切にしており、家族の信頼も厚い。利用者等の経験や知識が発揮できる、運動・歌・おやつ作り等のレクリエーションを取り入れ、事業所内でも楽しく過ごせるよう配慮している。また外出行事も多く、全員参加での温泉一泊旅行や果物狩りに行く等、室内に閉じこもらない工夫を積極的に取り入れている点は大変評価できる。地域密着型として、利用者本位を実践している温かい事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿って職員間で理解を共有できるように、新人研修や研修を行い、取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を理解し、事業所独自の運営理念と、スローガンを随所に掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーへ買い物に行ったり、理容室を利用したり、運営推進会議を通し理解して頂けるように取り組んでいる。	散歩や買い物時に挨拶を交わしている。地域住民のボランティア訪問もあり、相互交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練で認知症高齢者についての勉強会や緊急時の対応の講習をおこなっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回実施し、ご家族・地域住民の意見を取り入れ、サービスの向上に活かしている。	利用者・家族・地域住民・役場職員等が参加し、利用状況報告・行事予定と報告・家族の意見要望等、活発な意見交換が行われており、介護や健康の勉強会もしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	情報の交流を行いながら、町役場担当者に連絡、報告、相談を行い、サービスの向上に取り組んでいる。	役場職員は運営推進会議に出席している。日頃から相談や運営等で日常的に連絡を行ない、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしない介護に取り組んでいる。特に言葉使い、声掛け、態度には注意を払っている。	身体的拘束については、内部研修やミーティング・カンファレンス等で、話し合いをしている。全職員が身体拘束の弊害を認識し、共有している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通し職員間で理解を深めると共に、日々の言葉使いや態度に配慮を進めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や、管理者による内部研修にて理解を深めるよう努めています。現在のところ該当される方はおりません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明を行い、理解・納得していただけるよう努めております。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・苦情受付表を設置しております。又、運営推進会議等のご意見ご要望につきましては、速やかに対応し運営に反映しております。	玄関に意見箱を設置している。家族の来訪時には積極的に話し合いをし、運営推進会議にも家族が参加しており、意見・要望は運営やケアに反映している。	重要事項説明書に外部苦情相談機関の明記と、事業所内の掲示を期待する。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見・提案は管理者が随時聞くようにしております。又、月に1度ミーティングを行い、代表者も出席し、職員が直接意見・提案が出来る場を設けております。	月に1度、運営者・管理者・職員が参加しミーティングが行われており、意見や提案を聞く機会がある。その後内部研修会も行われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は概ね週に1回の訪問を行い、個々の勤務状況を把握し、サポートを行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人に対して職員全員がOJTを行っている。新人研修や、施設内定期研修にてトレーニングを行っています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	余市町グループホーム連絡協議会主催の勉強会や研修には参加しております。同業者との交流もできており、サービスの向上に反映しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居日前にご本人やご家族と話し合い、ご本人が安心して生活が送れるよう目指しております。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居日前に話し合いの場を設け、ご家族のお話を傾聴し、信頼関係を築けるように努めております。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族やご本人との話し合いやご本人の様子を把握し医師などの意見、情報を取り入れ、必要な支援を行うよう努めています。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がこれまで築かれてきた人生や生活を大切に、助け合いながら楽しく安心して生活が出来るように努めております。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族様が良い関係が築けるよう、よい環境作りや、日々の情報を共有、提供しながら連携に努めております。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得たり、ご本人のお話を傾聴し、出来るだけ問題を解決し、継続できるように努めております。	馴染みの美容室利用や初詣・墓参りに行っている。外出行事も多く、家族参加の『温泉1泊旅行』もあり、日々喜びや張りのある生活が送られるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの状態を把握し、職員は適切な声掛けをし、利用者様同士が関わり合い、支えあえる機会を作っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族とは定期的に連絡を取り、必要に応じて相談・支援できるような体制を整えている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴にて、ご本人の希望、意向を把握しケアプランに取り入れられるよう努めています。困難な場合はご家族と相談し、ご本人本位のプランになるよう検討しています。	センター方式を活用し、家族から得た情報や本人の日頃の行動や表情、過去の生活歴を基に本人の思いや暮らし方の希望や意向を汲み取り、職員間で情報の共有をしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様、ご家族様にヒアリングを行っています。入居後も気になることがあればご本人様、ご家族様より情報をいただいています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の観察により把握できるよう努めています。又、定期的に行動チャートを取り、1日の過ごし方をグラフ化し把握している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の希望を基に、職員全員にてアセスメントを共有し、カンファレンスにて話し合い、ケアプランに反映しています。	利用者の利用状況に合わせ、本人・家族の理解のもとに、状態に即したケアプランを作成している。変化が生じた場合は随時見直しを図り、実情に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録はエクセルファイルに入力し保存しています。情報共有のため「申し送りノート」を活用しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様からの要望に変化等あった時には、話し合いにて要望に答えられるよう努めています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が踊りのサークルに所属しており、慰問に来て下さりました。又、編み物を教えに来ていただいたりしております。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携の医師が定期的に往診に来て下さっています。ご入居時にご本人様・ご家族様の希望を重視し、ご入居前の主治医を継続されている方もいらっしゃいます。	利用者希望のかかりつけ医を受診し、送迎・付き添いをしている。また個々の病状に合わせた医療機関を受診できるように支援している。事業所には看護師が勤務している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調の変化を見ながら、看護師へ状態や変化を相談し、指示を受け対応しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の状態を把握し、病院関係者と相談を行いながら、連携に努めています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時にご家族、ご本人と話し合いを行い、医師とも相談をし、連携を図れるよう地域の方と共にチームで取り組んでいます。	医療連携体制の下「医療連携体制指針」を作成している。入居時から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを説明し、チームとして取り組んでいる。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にて開催している救命救急講習会の受講、施設内での研修を行い、急変時や事故に備えています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の非難訓練を行い、全職員が災害時に迅速に動ける体制作りを目指しています。又、運営推進会議と避難訓練を同時に行い、地域の方々の協力体制を築いています。	消防署の協力のもと、年2回防災訓練を実施し、避難経路の確認や実際に消火器を使用した訓練も行われている。	災害時に必要な、非常持ち出し袋・飲料水等の備品の準備を期待する。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応には充分気を付ける心がけています。	一人ひとりの人格を尊重し、声かけや対応に気を付けている。個人情報については、取り扱いに十分配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の要望をケアプランに取り入れられるよう、日常における言動に注意を払っています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の行動のペースに合わせ、散歩・買い物・レクリエーションなど、希望に副って支援できるように努めています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけのお店がある方には、そちらで定期的に髪を切っていただいています。洋服の買い物やレクリエーションに取り入れられたり、日々髭剃りが出来る支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片付けなど、その方の出来ることを職員と一緒にしています。	調理・配膳・片付け等に参加している。職員は食事環境が楽しくなるように、同じテーブルで笑顔を絶やさずサポートしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成したメニューにてバランスのとれた食事を提供できるよう努めています。食事量、水分摂取量は毎日記録して確認しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必要な方には口腔ケアの援助をしています。声掛けにて口腔ケアをされている方につきましては、夕食後に外した義歯を確認しています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターン、習慣を把握し排泄の援助を行い、オムツの使用を減らしていきけるよう努めています。	排泄チェックを行ないながら、排泄パターンを把握し、トイレでの排泄支援を中心にしている。3ヶ所あるトイレは使いやすく整備されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時に体操と散歩(又は室内歩行)15時に体操を行い、運動していただいています。水分摂取量をチェックし、一日1600ml~1800mlを飲水できるよう支援しています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者全員が気持ちよく入浴できるよう、希望やタイミングに合わせて入浴を支援しています。	一人ひとりの希望や体調に合わせて、リラックスして入浴できるように支援している。昔からの生活習慣を大切に、希望があれば毎日入浴できる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩、レクリエーションや体操への参加を促し、活動し夜間安眠できるよう支援しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者様一人ひとりが服薬されている薬について理解し、体調の変化等見られた場合は、速やかに報告し指示を受ける体制を徹底しています。服薬は音読確認、管理表にてチェックしています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内での役割を持ち、生活に張りを持たれている方や、お好きなレクリエーションに参加し楽しまれている方など、一人ひとりのニーズに副った援助に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の買い物など、ご要望にお答えしております。又、日帰り・宿泊の旅行を定期的に行い、利用者様の楽しみとしていただいています。	心身の活性化につながるよう、毎日のように歩行運動や体操・日光浴で屋外に出ている。ホーム前庭には椅子が配置されており、気軽に戸外で近隣住民と談笑することもできる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方は小額のお金をご自分で管理していただいています。他の方も買い物の際、お金をお渡しし、支払いをご自分で行っていただけるよう支援しております。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があった場合、ほぼご自由に掛けていただいています。定期的に手紙を書かれる方はおりませんが、年賀状を出したい要望が多く、毎年支援しています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日の天候や状況に合わせ、窓を開けたり、空気清浄器・換気扇などを使用し、快適な空間が保てるように配慮しています。又、利用者様と一緒に季節に合わせて装飾品を製作し、リビングに飾っています。	リビングは広く、習字やちぎり絵等の作品が飾られ、家庭的で癒しの場となっている。バリアフリーの建物は利用者の安全と、介護者の動きを考慮した造りになっている。温湿度や換気も適切で、心地良く過ごせるように工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ食卓テーブルやソファなどで職員を交えながら、思い思いに過ごしていただいています。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談し、自宅で使用されていた馴染みの家具を持ち込んで頂き、写真なども飾りつけ、過ごしやすいよう工夫しています。	居室には、自宅で使い慣れた私物や調度品などを持ち込み、馴染みの品々に囲まれ安心して寛いで過ごせるよう配慮・工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ること、わかることをケアプランやカンファレンスで職員間で共有し支援しています。施設内はバリアフリーであり、手すりの設置もされており、安全に過ごせる住まいとして提供できています。		